

Interview #01

*2026年2月インタビュー

2026年2月所属：理学研究科 理学専攻 物理科学領域
(名古屋大学融合フロンティアフェロー・日本学術振興会特別研究員)
2026年4月所属：大手通信会社



理学研究科 菊地 理紗子 さん

■ これまでやってきた研究の概要を教えてください。

私は物性理論という分野で、物質中で起こる物理現象を数学を使って理解する研究をしてきました。中でも、熱エネルギーを直接電気エネルギーに変換する「熱電現象」に注目していました。具体的には、特殊な電子構造を持つ材料に対して、これまでの理論では十分に扱われていなかった量子効果を取り入れて計算することで、従来の認識とは違って、熱電性能が高くなる可能性があるのではないか、ということを見つけたという研究です。もともと物理や数学は好きだったのですが、大学に入ってから、目に見えないミクロの世界を数式を通して“見る”ことができる場所にすごく魅力を感じて、この分野に進みました。

■ この春からはどういう仕事をする予定ですか？

春からは通信会社に就職し、これまでと同様に、物性物理の基礎研究に携わる予定です。大学院で行ってきた研究がとても楽しかったので、それをそのまま活かせるような形で研究を続けられるところを選びました。

■ 就職活動の経緯や、キャリアに関する考え方は？

就職活動では、企業だけでなくアカデミアも含めてかなり幅広く見ていました。その中で最終的に企業を選んだのですが、やはり数学が好きで、数理モデルを使った研究を続けたいという気持ちがありました。ただ、企業の研究は外からだ見えにくくて、どこで自分のやりたいことができるのか最初は全然分からなくて、そこは結構難しかったなと思っています。そうした中で、学会で自分の分野に近い研究をしている企業を知ることができたのは一つのきっかけでしたし、それに加えて博士学生向けの企業と博士人材の交流会に参加して、企業の方と直接お話しする中で、自分の分野を求めている企業があるんだということを知ることができました。そういった出会いがあって、今の進路につながったという感じです。

■ 在学中に経験してよかったことを教えてください。

就職活動にもつながる経験としては、まず学振特別研究員などの申請書を書く経験が大きかったと思います。複雑な内容を噛み砕いて説明する力や、重要なポイントを分かりやすく伝える力が身について、面接やエントリーシートでもそのまま活かしたなと思いましたし、研究発表のプレゼンテーションにもつながったと感じています。もう一つは、学部時代の学生団体やアルバイトでのチーム経験です。私は「あかりんご隊」という名古屋大学ジェンダーダイバーシティセンター公認の理系女子団体に所属していて、子ども向けの実験教室やキャリアイベントの企画をしたり、リーダーをやらせていただいたりしていました。研究は個人で進めることが多かったのですが、そういった経験が別の形でアピールできたのはよかったなと思います。また、学会に参加した経験もすごく印象に残っています。M2のときに参加した学会で、別の大学の学生の方から「こういうことやって面白くないんじゃないか」といった意見をいただいて、それをもとに話し合いながら発展させていったのが、今の研究テーマにつながっています。今もその方と共同研究をしているので、そういう出会いがあったのはすごく大きかったなと思います。

■ 就職活動で評価されたであろうと思うことはありますか？

専門性という意味では、物理の知識に加えて、プログラミング力や数理モデル化の力は、いろいろな職種で評価していただくことが多かったです。また、自分でテーマを立てて主体的に研究を進めて、発表までやり切るという一連の経験も評価していただいたと感じています。

意外だったのは、コミュニケーション力も結構見られていたことです。専門職だと専門性が重視されるのかなと思っていたのですが、実際には成果を分かりやすく説明する力が求められているというお話を聞くこともあって、そういう意味では、学部時代の団体活動やアルバイトの経験が活かされたのかなと思いました。

■ 後輩たちにエールをお願いします。

私自身、正直かなり忙しかったなというのはあるのですが、その中で感じたのは、やっぱり早めに情報収集をしておくことが大事だということです。博士の就活は始まる時期が早いですし、周りに同じように就活をしている人も少なく、情報もあまり多くありません。

実際にやってみて、企業によって博士人材へのニーズがかなり分かれているなという印象がありました。博士を全く求めていない企業もあれば、積極的に採用したいという企業もあります。なので、自分の専門を求めている企業を早い段階で見つけておくことが大事だと思います。

D1の頃から少しずつ企業や職種、採用時期を調べておくと、研究と両立しながら進めやすくなると思いますし、オンラインの説明会なども活用しながら、自分なりに取捨選択して進めていくのがいいのではないかと思います。